

平成20年度 自己評価表

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の 重点目標	1. 主体的な学びの涵養 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と進路保障 4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立				
年 度 当 初							
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	評 価 結 果 () 月		
	経過・達成状況	評価	改善方策				
1. 主体的な学びの涵養	○生徒の自宅学習時間は二極化の傾向にあり、全体的にも自宅学習習慣の定着が不十分である。 ○実習を伴う科目については、学習意欲は高いが、座学の学習内容の定着にはばらつきがある。	○授業改善と基礎学力の定着	○1日の授業以外の学習時間が、理数工学科では2時間以上、工業科では1時間以上となること、30分未満の生徒の割合が30％未満となることを目標とする。 ○わかる授業、魅力ある授業を創造するために、全教科が年1回以上の公開授業を実施する。 ○生徒対象の学校評価アンケートで「授業の工夫がなされている」に肯定的な生徒の割合が80％以上になるように努める。	○年2回の自宅学習調査や各定期試験後の個人面談をとおして学習習慣の定着指導を徹底する。 ○授業での生徒の理解度に注意を払いながら個に応じた指導を図りわかりやすい授業を日々工夫する。 ○補習や資格検定指導の充実を図ることで学ぶ意欲の喚起や自主的な学びにつなげる。 ○手作り教材の活用やノート点検・個別指導の徹底を図るなどして基礎学力の定着に力点を置いた取り組みを推進する。			
	○進路意識の定着については個々により意識に差があるが、全体的には不十分である。 ○近年各種クラス委員の活動は活性化してきているが、担当分掌との関わりが弱くクラス委員の活用が十分図られていないものがある。 ○部活動において、運動系・工業系は盛んであるが、文化系は全体的に衰退気味である。	○生徒の自主性の育成と実践力の意欲喚起	○生徒対象の学校評価アンケートで「生徒会活動などの生徒の主体的活動を支援している」に肯定的な生徒の割合が75％以上になるように努める。 ○部活動の延べ参加率70％以上をめざすとともに、県大会入賞者数、中国大会・全国大会出場者が前年度以上となるように努める。 ○強化指定の部の増加をめざす。	○自己理解を深めさせ、生活目標・進路目標を確立させるための複合的な取り組みを進める。 ○生徒の自主性を育成し実践力を伸長するため、委員会活動を各分掌・各学年で指導・支援するとともに、生徒と職員が一体となって取り組む。 ○部活動において、生徒の活発な活動を維持するとともに文化部活動の充実（活動内容・活動日の充実、部員数の増加）を支援し、全体的な活性化を図る。			
2. 豊かな人間性の育成	○生徒一人ひとりの思いを十分理解した教育活動をめざす上で生徒と教職員の信頼関係を築く必要があるが、会話の不足から意識のずれもある。 ○大半の生徒達は、他者のことを推し量ったり、思いやることに心をくだいたり、協力し合う連帯感をもって物事に当たることがきちんとできているが、一部に生徒の中には自己中心的な言動がある。	○人権教育の推進と生徒理解	○「Q－U調査（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」を全生徒に実施し、学校分析から望ましい集団づくりに心がけるとともに支援を要する生徒の把握に努め、不登校や長期欠席者数が前年度以下となるよう努める。 ○差別解消に向けて教職員の「一人事修参加100％」をめざす。 ○日常的に生徒と関わる時間の確保に努め、カウンセリングマインドを持ち、個々の生徒の良さを認めながら意欲喚起を図る個別指導をとおして、生徒理解の一助とする。	○年2回「Q－U調査」を全生徒を対象に実施し、分析結果を学級や個々の生徒の理解に活用する。 ○教職員自らが研修等をおとして自己を振り返り、学ぶ姿勢を持ち続けるとともに「全教科・全領域での人権教育」を実施する。 ○全職員が当番制で実施している朝の交通安全指導をとおして明るく人間関係をづくり、コミュニケーションの第一歩である挨拶運動を進めていく。 ○課題の早期発見、早期対策に努める。			
	○テクノボランティア等の参加者が増加しており、人や社会のために役立とうとする意識が高まっている。	○健全な心身と社会貢献の精神の育成	○豊かな心を育む読書活動の一環として、年間の図書貸出冊数が前年度対比100％増となることをめざす。 ○各種ボランティア活動の年間参加者数を昨年度以上となるよう努める。 ○命の教育である性教育に関する時間を年間2時間以上確保する。 ○TEAS（鳥取県環境管理システムⅡ種）で掲げている今年度の環境改善目標の達成をめざす。	○図書館を利用した授業実践や企画展示、図書館便り等の広報活動に努めることで図書館に足を運ぶ生徒を多くする取り組みを進める。 ○各種ボランティア活動は、社会の一員としての自覚を深め、生徒の学びと成長に寄与するものであり、積極的な参加を推奨する。 ○性教育に関する講演会やLHRをとおして正しい異性観を持ち、意思決定・行動選択のためのスキルを身に付けることで性への自立・共生を目指す。 ○管理美化委員の積極的な活用を図るとともに環境宣言の周知徹底を図り全生徒の取り組みとなるよう努める。 ○健康づくりのために食の環境整備や食をとおして心をはぐくむ観点から食育教育を推進する。			
3. キャリア教育の充実と進路保障	○専門教科の授業で学んだ基礎基本の知識・技術を大切にしながら、それらを活用していくことの大切さや楽しさを実感させるための様々な支援や奨励を行っている。多くの生徒がそれに応じてくれるが、まだ十分とは言えない。	○専門的知識・技術の習得とその深化	○生徒対象の学校評価アンケートで「資格取得や検定のための指導に積極的に取り組んでいる」に肯定的な生徒の割合が80％以上になるように努める。 ○各種資格取得、検定を奨励し、専門教科への関心を深めるとともに進路決定に役立てる。合格者数前年度対比5％増をめざす。 ○ものづくりコンテスト等の各種競技会への積極的な参加を促し、HP等にも結果報告や感想等を交えた記事をタイムリーに掲載する。また、競技会入賞者の数を昨年以上となるよう努める。	○資格検定年間スケジュールを提示し、専門教育部をとおして各種検定の案内・申し込みの集約を行うとともに受験者・合格者のデータ化を図って意欲喚起につなげる。 ○的確な技術指導ができるよう、企業での教職員研修等を継続実施していく。 ○各科毎の課題研究発表会をとおして探究心や表現力を養成するとともに複数の科にまたがるテーマを設定し実施する。 ○明確な職業意識や勤労観を養うために企業見学会を2、3年生を対象に実施してきたが、今年度から早期からの意欲喚起の必要性から1年生からの実施とする。 ○工業学科2・3年生を対象とした3日間のインターンシップに加えて、3年生の希望者を対象とした長期休業中5日間程度のインターンシップを実施する。			
	○自己理解が十分でなく、漠然とした進路希望はあるが、将来を見据えて就きたい職業を決定することが出来にくい生徒が少なからずある。 ○社会人となるために最低限必要な基本的生活習慣の確立、特に遅刻・早退・欠席の防止に努めている。その数は近年減少傾向にあり、精勤・皆勤者数も比例して増加しているが、まだ十分とは言えない。	○基本的な生活習慣の確立と個々の生徒に即した進路指導の徹底	○生徒対象の学校評価アンケートで「きめ細かな進路情報の提供や個に応じた進路指導を行っている」に肯定的な生徒の割合が80％以上になるように努める。 ○3年間を見通した進路指導を行い、自己の適性を理解した進路選択ができる力を育む。そのための進路に関するLHR時間を1、2年生は年間5時間以上、3年生は年間7時間以上確保する。 ○年間遅刻・欠席者数を前年度対比5％減をめざす。	○各学年毎に進路LHR、進路説明会・模試・諸検査等を行い、進路意識を高め個々の進路に応じた適切な指導を行う。 ○保護者の体験に学ぶ会、企業見学会、現場体験学習、社会人講師等をおとして生徒の進路意識の高揚を図り、自発的に進路決定できる能力を養う。 ○定着指導の充実方策の一貫として、1学期中に進路指導担当職員に加えて各科職員による企業訪問を実施し情報交換することで連携を密にする。 ○遅刻・早退・欠席削減のため遅刻・早退カードの活用や保護者への連絡を徹底するとともに全職員による朝の登校指導を実施する。 ○学年別月間努力目標を設定し、生徒が目標達成に向けて努力し、考え、工夫する契機とする。			
4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立	○企業見学会や現場体験学習、インターンシップを実施しているが、受け入れ企業が限定されており、生徒の希望どおりにはなっていない。	○産業界との連携強化と外部の教育力の活用	○地域産業の担い手育成プロジェクト事業での懸念事項である専門性を生かした分野での企業実習となる日本版デュアルシステムの導入についての検討を進める。その際1学期中に先進校視察を実施する。 ○工業各科で4社以上の企業訪問を実施する。	○地域産業の担い手育成プロジェクト事業が2年目を迎えるが、教育プログラムでの検証・熟練技術士の招聘、技術力向上を目的とした教員研修、企業でのインターンシップ等の具体的な実践に取り組む。 ○企業との合同課題研究の本格実施を進める。			
	○ポリテクセンターでの技能祭や津ノ井公民館での文化祭への作品展示等を行っている。 ○従来から本校独自の取り組みとして、津ノ井地域懇談会を実施しているが、地域の学校に対する要望を聞き取った生徒の実態を把握する絶好の機会となっている。	○開かれた学校づくりの推進	○地域代表対象の学校評価アンケートで「地域と積極的に連携している」に肯定的な人の割合が75％以上になるように努める。 ○学校公式HPの更新回数を必ず前年度以上とする。 ○学年別懇談会、学科別懇談会等の1年間のPTA行事の平均参加者の割合が前年以上となるよう努める。	○各科で研究、製作したものを文化祭の「島工TEC」で展示し、地域住民に参加を呼びかける。 ○各科合同課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ○近隣の中学生を対象とした「ものづくり教室」や近隣の小学生を対象とした「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ○学校公式HPの刷新を図り、情宣活動を充実する。			

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]